

番号	広場の名称
	親子のひろば「にこにこパーク」

広場運営実績報告書(2)

以下の事業内容について、成果及び今後の課題等を具体的に記載してください。

1 子育て親子の交流, 集いの場の提供

①母親同士・父親同士の情報交換や友達作りの場の提供

通常のひろばは多目的室と地域交流室をスライディングドアで仕切り、地域交流室では自由に親子が触れ合い、親同士も談話できるようにした。ひろば全体のスペースを仕切ることに参加した親同士の関わりが深まっている。又パパ向けのイベントを開催すると終了後には育メンパパ達が子育て談義が深まる場面も多い。

②子育てからの解放感

毎日の育児で疲れているママ達が多いのが現実である。産後に自分の体が回復するとひろばに来て、ヨガプログラムに参加して、リフレッシュを望むママ達が多い。毎日の子育てと家事等で自分を見つめる時間が無いママ達にとって、子どもと離れてゆったりとできる時間が必要であると感じる。子育ての成功には、まず親の疲れや悩みや不安を取り除くことが大切である。そのために集いの広場でもプログラムを提供することが、虐待の予防策になると考えている。

③アタッチメントタイムの提供

アタッチメントとは子どもの発信に気づき、子どもの不快状態を緩和できることであり、大人に守られて初めて、子どもは安心感と信頼感を身に付けることができる。そのために当広場ではベビーマッサージをはじめ、子どもとの触れ合いを体験してもらうプログラムを導入している。

2 子育てに関する相談、援助の実施

①各種イベントを利用した子育て相談

各種イベントを開催し、子育てに関した知恵や情報を提供した。本年度は栄養士の資格を持つ現役ママスタッフを雇用したことで、離乳食の試食会を再開することができた。相談受付コーナーと銘打っても、中々相談できない人が多い。そのため、ベビーマッサージやヨガの時間を通して、日頃の悩みや不安を解決できるようママ達に寄り添った。

②ママ友には話せない相談ごと

当広場の地域はアパートやマンション等が多く、他の地域から引っ越して来て、知り合いの無いママ達が多い。そのためにママ友を作るためにひろばに来る人も多い。しかし、相談事はママ友にはできない人が多い。そのため、当方で実施している「家庭訪問型子育て支援ホームスタート」に申し込む人も出てきた。特に年子や年の近い子どもを複数育てているケースは悩みが深いことが分かった。今後は子育て支援拠点等での利用者支援が開始するそうだが、制度に乗れない人々を救うためにも、地域に根差した活動を続けたい。

3 地域の子育て関連情報の提供

①市内の子育てひろばや拠点と連携協力して、お便りや情報を交換し、利用者に広く周知している。

「にこにこパーク」通信やホームページ、掲示板を活用し、ひろば情報やイベント開催の案内をしている。

②泉区子育てネット

泉区では地域ごとに「子育て支援ネット」が組織されている。当方も「しらゆり地区」に属して地域の子育て支援機関と連携して、「地域の子育て力」の育成に努めている。公園あそびでは餅つきをしたり、伝統のあそびを伝えて、地域の人々と親子が触れ合う場所を提供している。

③施設長が各種子育て支援講座の講師を務め、全国的な子育て支援活動を行っている。

4 子育て及び子育て支援に関する講習の実施(実施回数も記載してください。)

各種子育て支援プログラムを定期的に実施した。

①アタッチメント・ベビーマッサージ(赤ちゃんの不安を受け止め、守られる喜びを感じて信頼関係を作る) 毎月4回 年間48回 延127組

②アタッチメント・ベビーヨガ(ママと体を動かして一緒に喜びを感じる) 毎月2回 年間20回 延62組

③ママのためのヨガ(ママが自分を癒す時間を提供) 毎月3回 年間31回 延153名

④ベーシックヨガ(主にシニア向け) 毎月2回 年間18回 延46人

⑤リミック(専任講師) 毎月1回 年間12回 延159組

⑥離乳食試食会 毎月1回 年間10回 延77組

⑦絵本の読み聞かせ会(ボランティアによる) 毎月1回 年間10回 延121組

⑧英語と遊ぼう 毎月1回 年間11回 延93組(113名)

⑨パパと一緒にヨガ(パパと子どもの触れ合い) 毎月1回 年間8回 延13組

⑩アタッチメント・マタニティーヨガ 毎月1回 年15回 18名

⑪親子響室(音楽会) 年間5回 延81組

⑬お楽しみ会 37組

⑮その他各種講座 6回

5 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携について、取組の実績や課題を具体的に記載してください。

・泉区内の子ども虐待防止ネットワークのメンバーとして、乳児院施設長の立場並びに子育て支援の立場で泉区子ども家庭支援課や児童相談所と連携協力している。
・地域の見守りネットワークのメンバーとして、2か月に1回の頻度で開催する会合に、当施設の地域交流室を会場として提供し、関係機関と協力して地域の子育て中のママ(子育てサークル等)を支援している。
・乳児院に入所している子ども達は職員と共に「ひろば」に参加して、交流している。乳児院に子どもを預けている保護者も「ひろば」を使って面会することで、社会復帰(自立支援)の練習になっている。
・家庭訪問型子育て支援ホームスタートのビジター(ボランティア)養成講座を2回開催し、地域住民にも子育て支援についての重要性を啓発できた。

6 安全面での工夫や配慮について、取組の内容や課題を具体的に記載してください。

①ひろば内では、ハイハイやつかまり立ちの練習ができるよう、子どもの行動に配慮している。
②転倒防止のため、ひろば内では「裸足」になってもらうため、床暖房を完備している。
③常に複数の目が届くよう、人員配置を心掛けている。
④参加するママたちに、自分の子どもから目を離さないようお願いしている。場所を離れる必要がある場合は、必ず、声掛けをお願いしている。
⑤ひろば内での昼食タイムを設けているため、「ランチスペース」として多目的室を開放し、遊んでいる子どもと区別をして、接触による食物アレルギーを予防している。
⑥乳児院の防災訓練には広場に来所しているママ達も参加してもらい、防災知識を広めた。

7 事業全体の自己評価(実績や課題等を具体的に記載してください。)

当ひろばの平成27年度の新規利用者は236名となっている。
参加の目的別には、①子どもの遊び場を求めて 172名 ②リフレッシュ 58名③イベント参加 58名 ④ママ友作り 46名 ⑤その他2名となっている。
住所を調べると、当施設の近隣が136名 少し離れたところで電車・バスを使用する人が42名 戸塚区が18名 その他が40名となっている。
広場を知った方法は①友たち 83名 ②ホームページ 61名 ③区役所や保健師 50名 ④当方の掲示板 22名 ⑤チラシ 19名
⑥その他が14名となっている。
子どもの数は一人っ子が224名で2人以上は12人とどまっている。
参加者の全体像を見ると、初めての子育てママが圧倒的である。そして、参加の理由は子どもの遊び場と共にイベント参加も含めた自分のリフレッシュの多いことが分かった。広場を知った方法としては友人が多いということは、口コミで広まることの重要性を示している。良い評判になることが今後の課題であることが分かった。

8 その他、来年度取り組みたい内容、今後の展望など

乳児院が開催している「広場事業」であるため、虐待防止の一助策となるよう引き続き子育て支援を実施していきたい。しかし、広場に出てこられる親は良いが、出てこられない人が本当に課題を抱え、誰にも相談できずに一人で悩んでいる。そこで開始した家庭訪問型子育て支援ホームスタートであるが、正直、行政からの補助金対象になっていないため、施設長等の寄付で成り立っている。できれば広場事業での地域支援事業の一端として位置付けられると安堵する。しかし、未定であるため、乳児院の地域貢献事業(虐待防止事業)として行っていくことにした。

虐待防止の観点から、①子育てに不安を持っているママたちがいること ②ママの気持ちに寄り添える人が少ないこと ③初めての子育てで相談する人がいないこと ④どこで何を相談できるのかを知らないママたちがいること ⑤ママ自身を褒めて自信を取り戻してもらう必要があること等支援できる方策が実現することを願っている。